

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	アクロステクニカルカレッジ		
○保護者評価実施期間	令和7年3月24日 ～ R7年4月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年3月24日 ～ R7年4月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個人学習の時間を通して、一人ひとりの「得意なことをさらに伸ばしたい」「苦手なことを克服したい」といった思いや目標に寄り添った支援を行っています。面談等を通じて、利用者さん・保護者の方との話し合いを丁寧に行い、将来を見据えた取り組み内容を一緒に設定しています。	設定された個別の目標に対し、「タイピングスキルの習得」「受験対策としての数学学習」「パソコン検定の学習」「敬語や言葉遣いの練習」「面接練習や自己PRの練習」など、各利用者さんのニーズや進路に応じた取り組みを行っています。学習中も声かけやフィードバックを通じて、自分で振り返り、次につなげていく姿勢を育む支援を意識的に行っています。	学習の成果や取り組みの変化をより可視化できるよう、学習記録の見直しや成果の振り返りシートの導入を検討しています。また、学習内容の幅をさらに広げ、より多様なニーズに応えられるような教材・支援方法の充実にも取り組んでいます。
2	後半のプログラムにおいて、小集団での活動を通じ、社会性や表現力、協調性を育むことを大切にしています。集団ならではの体験やコミュニケーションを通じ、さまざまな価値観や考えに触れ、自分らしく挑戦する機会を提供しています。	SSTや語彙力の向上をはじめ、ChatGPTなどのAIツールを活用した活動や、PowerPointを使ったプレゼン練習、クッキング、運動プログラム、ビジョントレーニング、英会話、プログラミングなど、多岐にわたる内容を用意しています。新たな気づきや経験を得られるよう、目的や意図を明確にした構成を心がけています。	活動ごとの振り返りや、自分の得意・関心の再発見につながるような記録や共有の仕組みを充実させ、自己理解と自信につながる支援をより強化しています。また、より多様な分野に触れられるよう、利用者さんの興味関心を取り入れたプログラムの開発にも引き続き取り組みます。
3	保護者の方々に安心してご利用いただけるよう、利用者さんの日々の活動の様子を丁寧に記録し、家庭との情報共有を大切にしています。	当日の取り組み内容だけでなく、「どのような狙いを持ってその活動を行ったか」「利用者さんがどう関わり、どのような気づきや成長があったか」といった視点も明記するよう心がけています。また、活動中の様子を撮影した写真を毎月まとめてご家庭に提供することで、文章だけでは伝わらづらい表情や雰囲気も視覚的に共有できるようにしています。こうした取り組みを通して、日々の小さな成長や頑張りや保護者の方々と共に見守り、共有していくことを大切にしています。	保護者の方からのフィードバックを記録や写真共有の質の向上に活かしながら、より一層の「伝わる・伝え合える支援記録」のあり方を模索していきたいと考えています。必要に応じて個別記録の振り返り面談等も実施し、ご家庭との連携強化にも努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが限られており、運動を伴う活動や身体を大きく使ったプログラムを行う際に、十分な広さを確保しにくい場面がある。	放課後等デイサービスと就労移行支援を併設した多機能型事業所であり、就労移行支援においてはパソコンの常時設置が不可欠です。また、放課後等デイサービスにおいても、パソコンの使用は日常的な支援内容に組み込まれており、設置の必要性が高い状況となっています。このため、事業所内のスペースに一定の制限が生じやすく、活動内容によっては場所の使い方工夫が求められる状態が続いています。	スペース制約のある中でも柔軟に活動できるよう、用途別のレイアウト変更の工夫や、必要に応じて外部スペースの活用も含めた対応を検討しています。また、ICT機器やデジタル教材など、スペースを問わず実施可能な活動内容のさらなる充実にも取り組むことで、限られた環境下でも多様な体験が提供できるよう努めています。
2	地域との交流・連携に関する取り組みが限定的であり、地域資源の活用や外部との関わりを深める機会が少ない。	事業所を利用されている方の中には、外部との交流に強い不安や抵抗感を持つ方や、過度な刺激を避けたいというご家庭の意向もあり、無理に外部との接点を持つことで利用者さんの負担や不安が増すことのないよう、慎重に判断してきた背景があります。	今後は、全体的な取り組みとして無理に実施するのではなく、「関心がある方だけが参加できる」任意制の小規模な体験や、事業所内に地域の方を迎える形など、段階的かつ安心感のある形で地域交流の機会を模索していきます。利用者さんや保護者の意向を尊重しながら、安心して参加できる「ゆるやかな地域とのつながり」を目指して取り組んでいます。
3	保護者同士の交流の場や、保護者へのペアレントトレーニング等の学びの機会を提供できていない。	平日日中は就労移行支援の利用があること、また放課後等デイサービスとしての活動時間が夕方からであることなど、時間やスペースの制約があります。さらに、利用されているご家庭の中には共働き世帯も多く、事業所が平日のみの営業ということもあり、保護者の方が平日日中の時間帯に参加することが難しい現状もあります。また、保護者間の交流についても、ニーズには個人差があり、「他の保護者とつながりたい」という方と「プライベートはあまり共有したくない」という方のどちらの声も考慮する必要があると考えています。	事業所内での対面開催に限らず、オンラインを活用した意見交換やアンケート形式の情報共有など、参加しやすく心理的負担の少ない方法の検討を進めたいと考えています。また、個別の相談機会の充実や、保護者の方が必要な時に学べる情報提供のあり方も含めて、家庭支援のあり方を少しずつ模索していきます。